

「終活」悔いなく進めよう

支援ノートを作成

人生の最期に向けて準備する「終活」をサポートしようと、さぬき、東かがわ両市と大川地区医師会が、「もしものときの終活支援ノート～人生会議のすすめ～」を作成した。自分自身の基本情報や財産、葬儀などについて項目ごとに整理し、人生の指針を明確にしようという狙い。

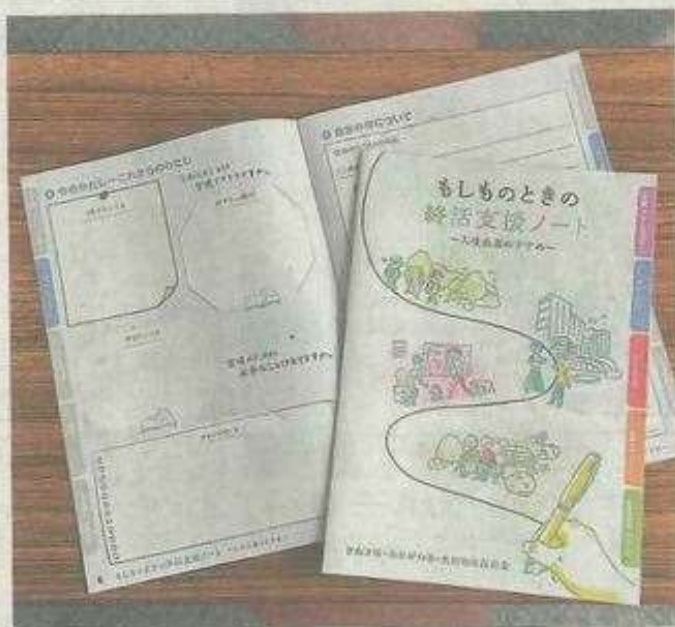
両市は2019年に同様のノートを作成。時代に即した終活を進めてもらうと、同医師会も加わって本人の意思

をより尊重する内容に更新した。

はじめに、本人が望む終末期の医療やケアを家族や医師と話し合っておく「人生会議」について、どのような流れで進めるべきか段階を追って解説。基本的な情報や自分史のほか、これから実現したいことなどを記すページを新たに設け、前向きに取り組めるよう工夫している。

また、病気になった場合や介護が必要になった場合の対応のほか、遺言書の有無や葬儀費用、不動産や預貯金、生命保険などの財産も細かく記入できるようにした。両市の高齢者相談を行っている担当部署について、事業内容ごとに整理した内容も盛り込み万一の際に参考にしよう。新たなノートはA4サイズで7700部作成。両市の医療機関や薬局、公共機関などで配布している。同医師会在宅医療介護連携支援センターのホームページからもダウンロードできる。

東讃2市、大川地区医師会



さぬき、東かがわ両市と大川地区医師会が作成した「もしものときの終活支援ノート～人生会議のすすめ～」